

< 特別寄稿 >

正山征洋先生のご厚意で所蔵されている「ボタニカルアート」の一部を紹介させていただく事になりました。大変貴重で興味深く、芸術性も高い作品に加え先生自ら解説されています。

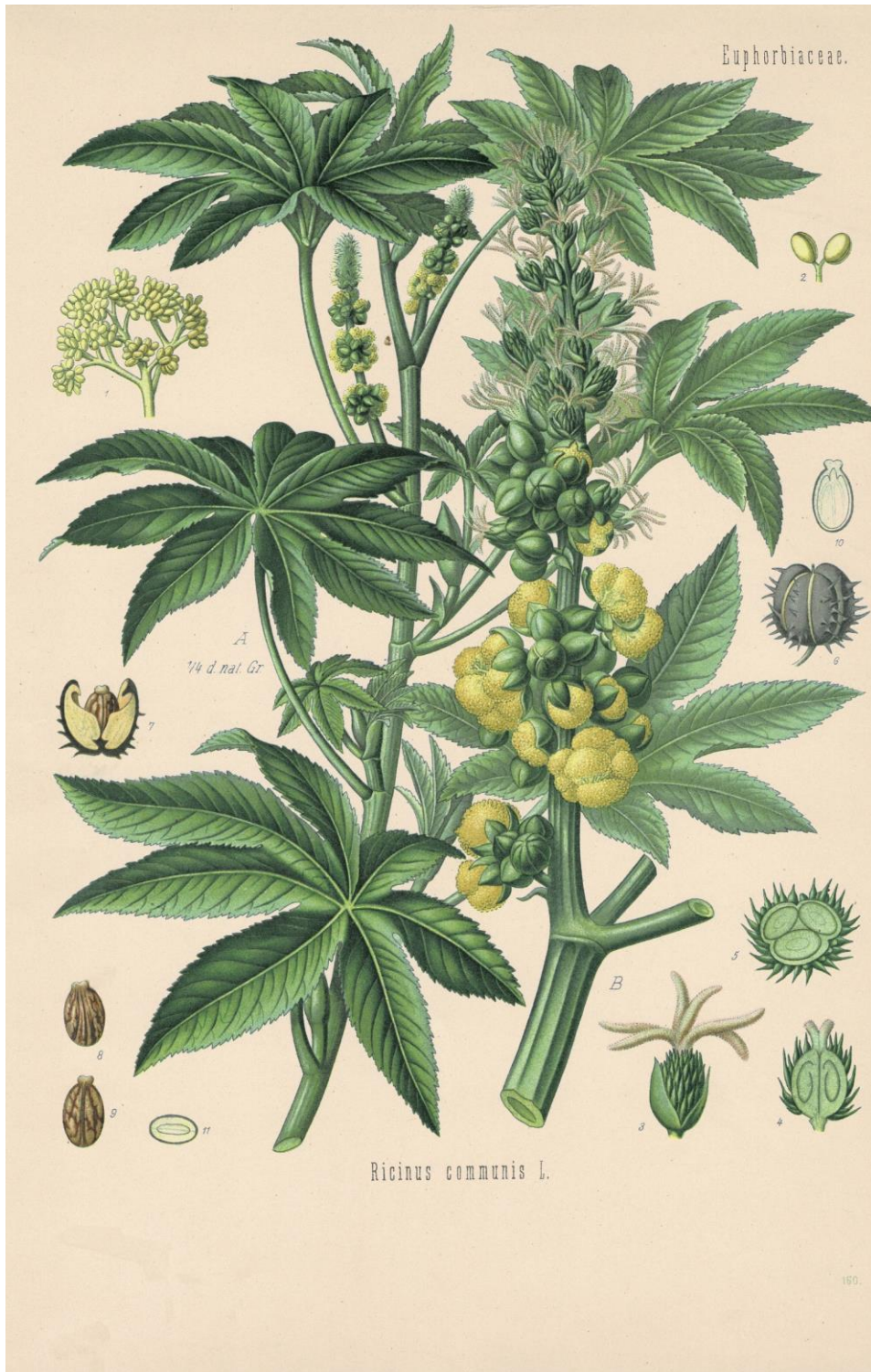
ボタニカルアート

九州大学名誉教授・長崎国際大学名誉教授

正山征洋先生

第52回

トウゴマ



トウゴマは学名が*Ricinus communis*で、*Ricinus*はラテン語の「地中海地方の船ジラミ」、*communis*は「普通の」を意味します。種子に縞模様がありシラミに似ている事からつけられました。

トウダイクサ科に属する多年草ですが、日本では冬の寒さのため枯れてしまいます。夏～秋に棘を持つ果実が熟し3個の種子(ヒマシ)を内蔵します。

種子には40～60%の脂肪油が含まれていますので圧搾してヒマシ油を得て、主に工業用に用いられます。また、日本薬局方にはヒマシ油が収載され下剤として用いられます。しかし圧搾油にはアルカロイドのリシニンや毒性タンパクのリシンが含まれますので注意が必要です。

本画はステップによるもので1800年代半ばの作品です。